水道産業新聞　2025年10月2日　10面

複合災害に備え防災シンポ

防災推進国民大会

内閣府など主催の防災イベント「防災推進国民大会2025in新潟」が9月6～7日、新潟市内で開催された。大会は産学官民の関係者が日常の防災活動などの発表や交流が行われ、今回で10回目。新潟県内では2004年10月に中越地震、2007年7月に中越沖地震が発生しており、経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えるとしている。

セッションの一環として、日本学術会議学術シンポジウム／第20回防災学術連携シンポジウム「複合災害に立ち向かう防災の知恵―新潟と能登の経験から」（主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会、防災学術連携体）が7日にオンラインで開催された。新潟県および周辺地域で発生した地震や豪雪、豪雨などの災害を振り返るとともに、2024年に発生した能登半島地震の教訓を共有。これらの災害が複合的に発生するリスクを踏まえ、防災の最新知見や情報を発信した。

この中で、鍬田泰子・神戸大学教授は「地震後の生活ライフラインを守る」と題して講演。ライフラインの復旧が中長期にわたることを踏まえ、地震だけでなく、豪雨・豪雪など複合災害に備える必要性を指摘し、水道の早期復旧に向けて地上設置した仮設配管が、豪雨で二次被災することを想定した中長期対策も必要と強調した。